

トヨタ博物館の展示

藤井麻希

一 はじめに

トヨタ博物館は、会社創立五〇周年を記念して一九八九年に設立された、企業（トヨタ自動車株式会社 以下、トヨタ）に所属する企業博物館である。「皆さまとともに自動車の歴史を学び、人と車の豊かな未来のために博物館をつくりました」という館設立の目的は、入口の銘板にも刻まれている。場所は、名古屋近郊の長久手にあり、二〇〇五年愛・地球博（二〇〇五年日本国際博覧会）の長久手会場から約二キロメートル西に位置する。同年三月には東部丘陵線（リニモ）が開通したこともあり、名古屋駅から公共交通機関を使って約四〇分で来館可能になった。

企業博物館という、自社の歴史や製品の資料館・PR館をまず思

い浮かべるが、前述したように、当館は企業の所属施設でありながら、自社の歴史や製品にこだわらず、広くクルマの歴史を学んでいただけるような展示・普及活動を行っている。

敷地面積 四六、七〇〇㎡の中に、本館と新館、走行コースがある。常設展示は、ガソリン自動車一〇〇年の歴史を内外の代表的な車で体系的に展示・紹介することとしており、本館



外観写真



新館 2階展示場
日本のモータリゼーションの歩みと生活文化の変遷を展示



本館 2階展示場
1800年代末から1930年代の欧米車を展示



新館 3階 ギャラリー
錦絵、ポスター等をテーマ毎に展示



本館 2階 ルネ・ラリック
カーマスコット展示室
フランスのガラス工芸家ラリックが作ったガラス製カーマスコットを展示



新館 3階 図書閲覧室
自動車関連書籍、雑誌等をそろえている



本館 3階展示場
1930年代末から1970年代の日本車を展示

は約一二〇台（欧米車コーナー…一八八六～一九四〇年代の五十七台、日本車コーナー…一九三五～一九七〇年代の五十九台）の実車を展示している。一九九九年には、日本の自動車文化の移り変わりを、各時代の生活文化資料、約二、〇〇〇点とともに、約三〇台の車を展示している新館もオープンした。新館には、錦絵、ポスターなどを展示するギャラリーや、自動車関連の書籍約一万七〇〇〇冊をはじめ、雑誌、映像資料を揃えた図書閲覧室もある。

二 所蔵資料について

博物館の基本的機能として、収集・保存、調査・研究、展示・教育普及等が説かれており、当館でも開館以降これらに沿った館運営を行っている。所蔵資料は、約二万点で、その内訳は、主展示物の車両が約四〇〇台、副展示物（ポスター、模型、クルマの玩具など）が約一八、三〇〇点、書籍・カタログ・雑誌・ビデオが約九一、三五〇点である。クルマの博物館のため所蔵物が実車のみと思われる方が多いが、「人とクルマ」という観点で、時代背景を語る資料も収集している。

当館では、常設展を補完し、所蔵資料を活用する意味からも、企画展を行っている（年四回）。最近では基本的に、春は学術的なもの（例…一〇〇年前の自動車―日本にはじめて自動車が出た）、夏は子ども向け（例…ミニチュアカー展）、秋はアートのなもの（例…

車とアート「瞬間を刻むペーパーアート―太田隆司の技の世界―」）、冬は所蔵車展（例…一九五〇～六〇年代のオープンカー展）を行い、様々な切り口でクルマを取り上げている（参考資料1参照）。

また工作教室としてプラモデル、木や紙、ウレタンクラフトでお客様にミニチュアカーを作っていた機会も設けている。企画展やイベントを行うことにより、リピーターやクルマに興味関心がないかたでも当館にさらに足を運んでいただくきっかけづくりをしている。

次に、所蔵資料を中心に、当館の活動について述べてい。

（1）車両

当館の所蔵車両は、オリジナルを維持している点と、走行可能な状態で保存している『動態保存』が大きな特徴である。常駐の車両整備スタッフが五名おり、展示車両を定期的に点検し、走行させている。十九世紀末から二十世紀半ばまでの機構が一台毎に異なる車両を修理書や操作マニュアルもない中、調査、研究、整備、始動トライを行っている。整備を行う者は、トヨタ本社の技術部で車両開発試験業務に二〇年以上携わっていたベテランが多いが、一〇〇年前の車の整備には苦労している。車両の修復歴を記述する「車歴簿」や、操作・運転方法を詳細に記述する「始動要領書」などの記録は、図解入りの詳細な記録をし、貴重な資料となっている。

車両の復元研究やレストレーション（修復作業）については、歴史的に重要な車両を残していくことを目的に国産乗用車のパイオニア

車名:フォード、T型、ツーリング(赤) 生産国:アメリカ
 買産No:SPMI-0035 型式:1909年(明治42年)

No-9 改訂2、作成:04年5月2日

組長 担当 担当 担当

1. 燃料ポンプ
2. エンジン
3. クラッチ
4. ギアボックス
5. 燃料ポンプ
6. 燃料ポンプ
7. クラッチ
8. ブレーキ

※注意事項
 始動の際は、必ずエンジンオイルの量を点検してください。
 始動の際は、必ずエンジンオイルの量を点検してください。
 始動の際は、必ずエンジンオイルの量を点検してください。

※注意事項
 始動の際は、必ずエンジンオイルの量を点検してください。
 始動の際は、必ずエンジンオイルの量を点検してください。
 始動の際は、必ずエンジンオイルの量を点検してください。

車名:フォード、T型、ツーリング(赤) 生産国:アメリカ
 買産No:SPMI-0035 型式:1909年(明治42年)

No-9 改訂2、作成:04年5月20日

組長 担当 担当 担当

1. 始動要領書
 2. エンジン各部の点検
 3. マジック各部の点検
 4. 始動要領書

※注意事項
 始動の際は、必ずエンジンオイルの量を点検してください。
 始動の際は、必ずエンジンオイルの量を点検してください。
 始動の際は、必ずエンジンオイルの量を点検してください。

始動要領書

収蔵庫保管車両数は、常設展示車両数の約二倍もあるため、その保管・管理・メンテナンス場所の不足は、当館を悩ませている問題の一つとなっている。

こうした所蔵車両を活用し、お客様に見て、試乗いただく機会として「クラシックカー・フェスティバル」と題したイベントを開催当初の一九九〇年から開催しており、今年で十六回目を迎えた。フェス



新トラックレストア前



新トラックレストア後 完成披露

「オートモ号」を国立科学博物館と共同で実施したのをはじめ、新ガストラック、三輪トラックなど、乗用車だけでなく幅広く実施している。レストレイションが完了したものについては、その記録過程をまとめ、紀要や館だよりに掲載したり、館内の情報コーナーで公開している。



クラシックカー・フェスティバル
エンジンのかけ方なども実演



クラシックカー・フェスティバル
整備スタッフも衣装を着て走行させる

ティバルは、全国各地から百数十台の国産オールド・カーが参集し、当館の所蔵車両も一〇数台参加して、日ごろの動態保存の成果を披露している。こうしたイベントを通じて「人とクルマ」、「クルマと文化」について参加者が感じ、語り合い、コミュニケーションを図ってもらえる場の提供は、オールドカーファンをはじめ、自動車ジャーナリストからも評価をいただいている。

さらに春・夏のイベントで行なう、当館走行コースでの試乗会（同乗走行）は、お客様が実際にクラシックカーに触れることができる為、好評を得ている。

(2) 車両周辺資料

車両周辺資料として、カーマスケットやカーバッジなど、クルマの付属部品の一部の物から、時代背景を示すポスター、錦絵、クルマの玩具などを収集している。クルマに興味の少ない方でも、車両周辺資料を展示することにより、少しでも満足していただけるような工夫をしている。以下に展示室二つを例にあげて、工夫している点、苦労した点などを述べたい。

① ルネ・ラリックカーマスケット展示室

本館2階には、フランスのガラス工芸家、ルネ・ラリック（一八六〇—一九四五）が制作したガラス製カーマスケットが展示されている。カーマスケットとは、一九二〇年代に全盛となったクルマのラジエーターキャップをお洒落に飾った装飾品である。名の通った芸術家がつくったこと、カーマスケットの多くが金属で作られていた中、ガラスで作られたため、人気を博したと考えられる。当時、下から豆電球で照明することができたカーマスケットの雰囲気を感じられるよう、展示室は他の展示場とは異なり照明を落とし、ガラス製カーマスケットを光ファイバーの仄かでフラットな照明で幻想的な空間にしている。ラリックのカーマスケットを全種類そろえ、常設展示しているのは、世界的にみても珍しく、女性のお客様に人気のコーナーとなっている。

この展示室は、私が担当している為、内情を踏まえ、以下にお話さ

せていただきたい。

開館前から一〇年以上をかけて収集してきたラリックのカーマスコットを、全種類そろったことから特別展にて公開し、新館オープンと併せ、本館に常設展示場を新設した。常設にすることになり、改めて有識者の先生方に話を聞きに行き、日本各地のラリック作品を展示している美術館に行き、担当者の方からお話を伺ったりもした（これがきっかけで現在でもお付き合いさせていただいている。また、こうした関係から、今年、当館のカーマスコットを京都、東京での巡回展で貸出しすることにもなった）。今までクルマの面からしか見ることができなかったラリック作品を、美術史的な観点から、また当時様々なガラス作品があった中、ラリックがどのような位置にいたのかを知りたく、自らも大学に編入してガラス工芸を含む美術史を勉強した。

展示場についての問題点は、場所と照明であった。展示室は以前映像室だった場所で、導線を外れた、奥まった所に位置している。当初お客様は全体で三割ほどしか入らなかった。そこで、入口にガラス製のアーチを作ったり、（中が暗く展示室だと気づかないため）入口に青色の照明をつけたり、カーマスコットが何か一目瞭然にするため、カーマスコットを装着したクルマの上品な看板を設置したりした。結果、約八割の方が気づき、展示室に入るようになった。

また、照明については、作品がより美しく見え、当時の様子も感じ取ってもらえるよう照明を暗くしたのだが、キャプションの文字が見難いとの指摘を受けた。ガラス作品は照明一つで大きく変化するた



ラリック展示室 入口アーチ

め、キャプションを誰が見てもハッキリ見えるくらい明るくすることには抵抗があった。そこで、展示場で見たいだけ、作品シート（A4）を作成した。作品の写真、作品タイトル、制作年のみだが、文字は大きくし、展示順に見ていけるようにした。

しかしやはり展示場では限



ラリック展示室 閲覧用シート



ジュール・シェレ《ベンゾ・モトロール》1900年

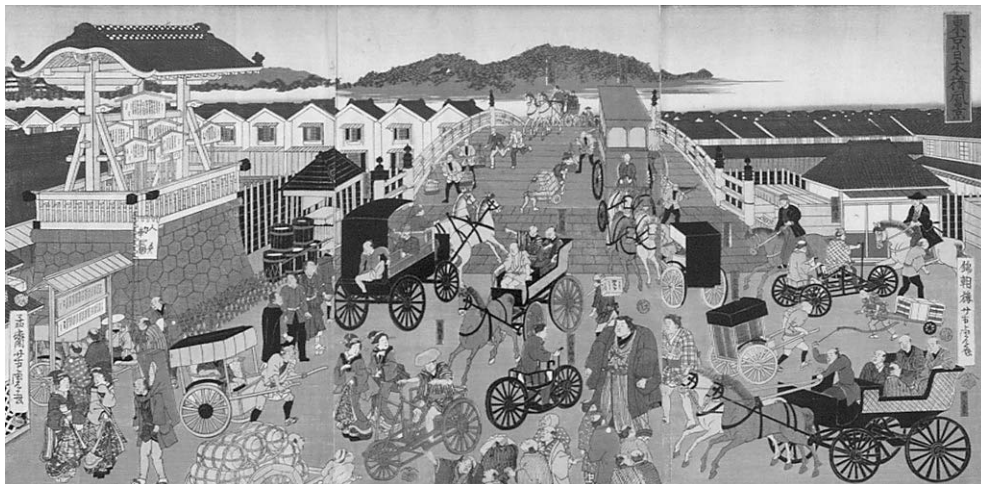
られた情報しかお伝えできない。詳しく知りたい方のために、学芸員が行う「なるほど講座」を開催することもある。さらに講座は決められた日、時間に来なければならぬため、講座用に作った資料を情報コーナーで開示していく検討をしている（現在企画展にて試行中）。学芸員が調査して、時間をかけて作った資料を一回の展示や講座で終わらせない為にも、情報をデータ化して蓄積し、公開していきたいと思っている。

② ギャラリー

一九九九年の新館開設時にギャラリーが設けられ、副展示物を中心に展示している。

副展示物とは前述の他に印刷物があり、後期近世～近代における交

通史・ガソリン自動車史に関連して国内外を問わず収集している。欧米資料では、黎明期～発展期が表された自動車メーカーのポスターや絵画であり、国内資料においては、江戸末期～明治・大正期では交通文化を表す横浜写真や刷物（錦絵などの石版画、木版画等）、昭和期では自動車メーカーの販売促進ポスターである。所蔵点数は、「ポスター」約七〇〇点、「絵画」約一八〇点、「横浜写真」約七、一〇〇点、「刷物」



芳虎《東京日本橋繁栄之図》明治3年

約八、七一〇点である。館設立前の準備段階から調査・収集し展示公開してきたが、ギャラリーではテーマ毎に約三十点の作品と模型を組合せて展示している（参考資料2参照）。

いわゆる観賞用の絵画とは異なり、広告を目的としたポスターや時事内容を宣伝する版画であるため「心に訴える」ことは難しい。しかしながら、絵画には無い「情報」が含まれていることを伝えたいので、展示補足（キャプション、解説シート、簡易図録、絵本など）を留意して、その魅力を紹介している。

また、お客様満足度を確保するためアンケートを実施しているが、「来館目的と美術展示とのギャップ（例えば、美術館的な雰囲気戸惑いを感じる）や、「自動車博物館になぜ錦絵があるのか」、「実車が無い」など率直なご意見を頂く。その都度、学芸員よがりの展示ではお客様は満足して頂けないことを痛感し、テーマ選択の見直しや美術館では出来ない絵画の展示方法、体験コーナーなど試行錯誤している。今後は実車やジオラマ模型などを融合した空間作りを考えていきたい。

三 （学芸グループが行う）

来館者への対面サービス

近年、多くの博物館で、来館者に「体験」する機会を提供することが、重要視されている。当館もそうした変化の中で、「トヨタ博物館で

しかできない体験」の提供をすることが期待されている。今まで「走行披露」、「同乗走行」までは行ってきた。新たな試みとして、来館者へクラシックカー運転の機会を提供するという体験メニュー等を行うため、以下に紹介する。

（1）T型フォード運転講習会

体験機会提供の一つとして、二〇〇二年末から「T型フォード運転講習会」を行っている。これは実際のクラシックカーの操作教育を実施して、当時の運転方法を体感していただくものである。車両は（運転の容易さもあり広く普及したといわれる）当館所蔵のT型フォード（一九一五年、一九二七年・アメリカ）を使用している。実施は、夏季と秋季の月一日の六回。一コース二時間三〇分で受講者二名、インストラクター一名、技術スタッフ一名のチームで実施（一日二コース実施）。

安全確保のため、参加者には条件を付け（マニュアルミッションの普通自動車以上の運転免許証を保有し、日常的にクルマを運転されている方。年令やその他の制限は設けていない）、参加は予約制とし、希望者多数の場合は抽選とした。受講料は、一人当たり五〇〇〇円である。

T型フォードは現在のクルマとはギヤ・ペダルなどの操作方法がかなり異なるため、短時間でマスターするのは難しい。そのため、事前にCD-Rなどの教材を送りそれを使用して繰り返しイメージトレー



講習風景



修了証書

ニングをしてもらうこととした。また日本フォード社が当時発行（一九二二年）した日本語マニュアル（博物館蔵）を、許可を得てコピーを講習要項として渡している。

募集をはじめてからの反響は大きく、約十八倍の抽選となる狭き門となった。応募者は、埼玉県から広島県まで広い地域から応募してくださった。受講者には、全長二七〇メートルの走行コースを走行していただき、講習終了後には、館長が終了認定した本人写真入りの修了証書をお渡ししている。終了後は心地よい疲労と満足感に浸り、なかなかお帰りにならず、余韻を楽しむ参加者も多い。

参加人数が限られているという難点はあるが、来館者に自ら運転してもらうという体験の場を提供できたのは学芸的な意義も大きく、今

後も続けていきたいと思う。

（2）バックヤードツアー

当館には常設展示車両以外にも、希少で、貴重なクルマなどを多数収集・保存している。バックヤードツアーは、普段見ることができない、「車両収蔵庫」にお客様をご案内するものである。実施時期は、三月から六月までと九月から十一月まで（月一回）で、時間は約一時間である。参加費は無料（博物館入館料は必要）の応募制、人数は先着一〇組である。ここでは、世界初のガルウイング（カモメの翼のように開くドア）のメルセデス・ベンツ300SL、五十一台しか造られなかったタツカー、映画「007は二度死ぬ」に登場した2000GTポンドカーなども見ることができる。

案内役は、学芸グループ員と整備スタッフであり、技術的なことから歴史的なことまで、その都度異なる参加者の興味に合わせて内容を变えて対応している。普段、お客様と直接接する機会が少ないスタッフの学習の機会ともなっている。冷暖房設備のない車両収蔵庫ではあるが、自動車愛好家だけ



バックヤードツアー風景

でなく、一般のファミリー・カップルの参加者は特別感もあり、楽しんでいただけている。

四 おわりに

本来は、館として様々な点から述べなければならぬところ、自身が学芸グループに所属するため、偏った紹介になってしまっていることをご理解いただきたい。特に、来館者への対面サービスについては、案内担当スタッフほか、総括グループや広報グループの活動面が全く欠如してしまっており、編集者の方の意図、読者の方の知りたい点にどれだけ沿うことができていたのかと、不安でした。が、この紀要を読んで、当館に興味・関心を持っていただき、来館したいと思ったださる方が少しでもいればとの思いで、なんとか筆を進めました。自身の紀要も四苦八苦している私が、他貴館へ寄稿するということは、思いもせんでしたが、学芸グループの活動をまとめることができる、よい機会を頂いたと、今では感謝しております。

参考資料1 . トヨタ博物館 特別展・企画展一覧(1990-2005/3)

■特別展

回	開催時期	テーマ	展示の概要
第1回	1990.4/14～6/17	日本の自動車の前史	開館1周年記念特別展として開催。 ロコモビル、円太郎バス、薪バスなどを主要博物館から借用して展示。
第2回	1990.10/27～12/9	シネマの中の車たち	「ローマの休日」「007は二度死ぬ」など懐かしい映画の中に登場する車両を紹介。
第3回	1991.4/20～7/21	自動車の誕生—パイオニアの時代	自動車が誕生する以前の乗り物である馬車や自転車を展示し、ガソリン自動車誕生までを紹介。
第4回	1991.10/15～12/1	乗り物とマスコット	自動車のマスコットをはじめ様々な乗り物のマスコット300点を展示。
第5回	1992.4/28～7/26	マイカー時代の訪れ	戦後の復興期から高度経済成長までわが国の生活と初期のマイカー時代に誕生した国産車を展示。
第6回	1992.10/6～12/6	懐かしの Tin Toy	当館ブリキ玩具コレクションのうち約200点を展示。
第7回	1993.4/20～7/25	BIG 3 の時代	1950年代のアメリカ自動車事情を紹介するとともにビッグ3の代表車を展示。
第8回	1993.10/13～12/5	ポスター&リトグラフ	20世紀初頭のフランス自動車ポスターやリトグラフ約40点を展示。
第9回	1994.4/19～7/17	国産車を創造した人々	豊田喜一郎生誕100年を記念して氏の業績とともに、同時代の橋本増治郎氏などを紹介。
第10回	1994.10/4～12/11	ネームバッジが語る自動車史	各国の代表的な車両のネームバッジとその由来、歴史を紹介。
第11回	1995.4/25～8/31	昭和20年代の国産車たち	戦後50年の節目に当たり、そのスタートとなった昭和20年代の車両14台を紹介。
第12回	1995.10/17～12/3	乗り物の文明開化	江戸末期から明治初期の交通錦絵約60点やかご、人力車、鉄道馬車の模型などを展示した。
第13回	1996.4/19～7/14	戦後ヨーロッパ車の復興	第2次世界大戦後のヨーロッパ各国の復興の様子と車両を展示。
第14回	1996.10/8～12/8	自動車の広告史	雑誌、新聞はじめ、ポスター、カタログなど自動車広告約300点を展示。
第15回	1997.4/22～7/27	20世紀の遺産—T型フォード展	20世紀文明の遺産ともいえる、T型フォードの果たした役割やわが国に及ぼした影響などについて概観。
第16回	1997.10/7～12/7	モダンな時代のクルマとくらし	ヨーロッパで誕生したアール・デコとその周辺をポスター、カーマスコットなどで展示・紹介。
第17回	1998.4/21～7/26	100年前の自動車	日本への自動車伝来100年を記念して、わが国へはじめて渡来した自動車を中心に展示・紹介。

回	開催時期	テーマ	展示の概要
第18回	1998.10/6~12/6	子どもの世界	クルマと子どものかかわりに焦点を当て、子どもの世界におけるクルマについて紹介。
第19回	2000.4/25-7/30	自動車をつくり育てた人たち	自動車をつくり育てた人たち50名程を常設展示の車両との関連で取り上げ、紹介。
第20回	2000.10/3-11/26	夢のクルマ大集合	日本の自動車史に焦点をあて、親子三世代それぞれが子供の頃に憧れた“夢のクルマ”を実車や玩具で紹介。
第21回	2001.4/24-7/8	クルマのしくみ探検	実際にクルマや模型などを見たり、動かしたりしながら、クルマの動くしくみなどクルマの構造や機構を楽しく学ぶ。
第22回	2001.12/4 -02.2/11	日本映画の中のクルマたち	日本映画とクルマとの関わりを10本の作品を取り上げ、その中に登場し、活躍するクルマの姿を追った。
第23回	2002.4/23-7/7	アメリカン・カー・グラフィティ 50s - 60s	1950年代から60年代の大型車全盛時のアメリカでのコンパクトカー市場の形成を実車、カタログ、資料などで紹介。
第24回	2002.10/8-12/1	ミニチュアカー展	ブリキ玩具からダイキャスト模型まで、当館所蔵のミニチュアカー約2000台を展示

以降、特別展・企画展を統一化

開催時期	テーマ	展示の概要
2003.3/25-7/6	博覧会と自動車	万国博覧会および国内で開催されたおもな博覧会の歴史を振り返り「博覧会と自動車」のかかわりを紹介する。
2004.3/30-7/4	国産車誕生100年日本くるま意外史	1904年に最初の国産自動車といわれる山羽式蒸気自動車が誕生して100年に当たるため、貴重な国産車を展示。
2004.7/16-10/17	おもちゃとのりもの こども博覧会	1900年前半に日本で開催されていた「こども博覧会」の説明コーナーを起点とし、昭和から平成に至るこどもの世界をおもちゃ等で紹介。コンセプトカーやアイデアカー等夢を与えられる車も展示。
2004.11/2 -05.9/25	大阪万博の頃	1970年に開催された大阪万博を振り返りながら、'70年代に活躍した国産車を11台展示、紹介。
2005.3/15-9/25	【トヨタ博物館秘蔵展】 人がクルマに恋した世紀 20th Century	ガソリン自動車が走り始めた時代からのクルマの歴史を広く眺めながら人とクルマの関わりを紹介。

■企画展（開催期間とテーマのみ記載）

開催時期	テーマ	開催時期	テーマ
1994/8/2-9/4	「100年前の日本」 里帰りした横浜写真	2001/1/30-4/8	収蔵車展 「1950～'60年代のオープンカー」
1995/12/12- 96/3/31	収蔵車展 「歴代クラウンと私たちの暮らし」	2001/7/17-9/16	車とアート⑥ 「佐原輝夫の世界」
1996/7/30-9/16	車とアート① 「藪野健絵画展」	2001/10/16-12/16	特別企画展 「トヨタ車 進化の軌跡」
1996/12/17 -97/4/6	収蔵車展 「変わり型ドアのクルマたち」	2002/2/19-4/7	クルマのカタチ …いろいろ展
1997/8/5-9/21	車とアート② 「穂積和夫の世界」	2002/7/16-9/23	企画展 ブリティッシュスポーツカー 「MG & ジャガー」
1997/12/16- 98/4/5	収蔵車展 「'50～'60年代のスポーツカー」	2002/12/17- 03/3/9	クルマとアート⑦ 「松本秀実の世界～クラシックカーの情景～」
1998/8/4-9/20	車とアート③ 「Bow の世界」 やさしい自動車たち	2003/2/8-3/23	特別企画展 「幻の秘蔵車初公開」
1999/8/3-9/26	車とアート④ 「細川武志の世界」	2003/7/18-9/21	親子で楽しむクルマランド
1999/10/5-12/5	特別企画展 「10年の歩み展」	2003/10/7-12/7	疾走するマシンとその軌跡 —モータースポーツの世界—
1999/12/14- 2000/4	収蔵車展 「リアエンジン車のいろいろ」	2003/12/16- 04/3/7	クルマとアート⑧ 「瞬間を刻むペーパーアート ～太田隆司の技の世界～」
2000/8/8-9/24	車とアート⑤ 「岡本三紀夫の世界」		
2000/12/5- 2001/1/21	特別企画展 カー・オブ・ザ・センチュリー —選ばれたクルマたち—		

参考資料 2 . トヨタ博物館 ギャラリー展示一覧 (1999-2005/3)

回	開催期間	タイトル	テ ー マ
第1回	1999.04.08- 1999.07.18	欧米のモーター ショー 1895-1938	1895年に開催された、世界最初のモーター ショー「パリ自動車ショー」をはじめ、第 2次世界大戦以前に欧米で開催されたモ ーターショーのポスターを紹介。
第2回	1999.07.27- 1999.09.26	自動車タイヤのポス ター展	ダンロップ、ミシュラン、グッドリッチな どタイヤメーカーのポスターを中心に、各 種自動車部品ポスターを紹介。
第3回	1999.12.14- 2000.04.02	日本の正月を彩った 絵すごろくと引札展	明治から昭和初期の乗り物を描いた絵すご ろくと引札を紹介。実際にすごろくで遊 べるコーナーも設置。
第4回	2000.04.25- 2000.07.23	自動車レースポス ター展 -モナコ・グ ランプリを中心に-	1930~57年のモナコ・グランプリのポ スター及びモンテカルロ・ラリーなどのレ ース関係ポスターを紹介。
第5回	2000.07.25- 2000.11.05	旅とドライブポス ター展	海や山へのドライブを描いたもの、鉄道・ 船・観光バスポスターなどの旅行関係ポ スターを紹介。
第6回	2001.04.24- 2001.07.08	20世紀初頭の世界の ポスター展	1901~10年に制作された欧米各国の自動車 ポスターを紹介し、100年前を振り返る。
第7回	2001.07.24- 2001.09.16	うちわ絵展	明治~昭和初期の自動車史に関連するうち わ絵を中心に展示。夏の風物詩である団扇 が、当時広告引札としての役割だったこ と、描かれているものに関連した錦絵など を紹介。
第8回	2001.10.16- 2002.01.14	クルマアート展	イラスト・彫刻・陶版画・クレイクラフ ト・モデルカーなど、表現方法が様々なク ルマのアートを紹介。初の一般の方々によ る展示。
第9回	2002.02.05- 2002.03.31	ポスターに描かれた 女性たち	1890~1920年代の作品を中心に、女性が登 場した自動車ポスターを紹介。
第10回	2002.04.16- 2002.06.16	サヴィニャックポ スター展	レイモン・サヴィニャックの作品を中心 に、近代ポスター四天王(シャルル・ルー ポ、ジャン・カルリュ、ポール・コロン、 A.M.カッサンドル)が描いた自動車ポ スターを紹介。
第11回	2002.07.09- 2002.10.14	オイル・ガソリン展 ~ポスターを中心に ~	オイルメーカーの紹介を2部構成にて紹 介。1部:歴史変遷・メーカー紹介、2部 :宣伝ポスターのシリーズ化(シェル社) を紹介。他にオイル瓶・缶などの実物を紹 介。
第12回	2002.11.19- 2003.02.16	双六・すごろく・ス ゴク展	明治・大正・昭和期のすごろくを紹介。体 験コーナーで、それぞれの時代のすごろく で遊べるコーナーを設置。

回	開催期間	タイトル	テーマ
第13回	2003.03.25- 2003.07.06	博覧会とポスターデザイン～アール・ヌーヴォーからアール・デコ様式へ	特別企画展「博覧会と自動車」との連動企画。パリ万博（1898、1900、1925年）を取り上げ、デザイン史の歴史を紹介。
第14回	2003.07.15- 2003.10.13	フランス車ポスター展	ブジョー・シトロエン・ルノー・ボワザンなどのフランスメーカー車両が描かれたポスターを紹介。他に模型や書籍、切手、絵葉書なども紹介。
第15回	2003.10.28- 2004.03.28	懐かしのトヨタ・ポスター展	自動車広告史を紹介。1970年代のキャッチコピー手法を、トヨタ・セリカ「恋はセリカで」「気になる男の気になる車」などのシリーズポスターで紹介。
第16回	2004.04.06- 2004.09.05	ドライブへGO！GO！展	郊外へのドライブや自然とクルマが描かれたポスター・リトグラフを紹介。
第17回	2004.09.14- 2005.03.06	スピード、スピード、スピード～爆走するレースカー展	「ル・マン24H」を中心にスピード感あふれるレースカーが描かれたポスター等を展示。「黎明期のレース」「世界3大レース」「色々なレース」と括りレースの歴史や特徴などを紹介。